

令和元年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	ブドウ「シャインマスカット」の省力化技術の検討
背景・ねらい	近年、主力品種の「巨峰」は価格低迷などにより高級ブドウイメージは薄くなっている。産地では「巨峰」偏重からの脱却や作業ピークの分散化のために無核栽培の導入や欧州系品種の積極的な導入が進みつつある。 中でも欧州系品種で無核栽培が可能な「シャインマスカット」は全国的に急速に生産拡大が進んでおり、市内の産地もその例外ではない。 一方で生産者の高齢化、担い手不足は進んでおり、省力化や栽培管理の簡便化は重要な課題となっている。
担当者名	野口久弥 鍋田慎介 田中貴広 三浦雅子 中野耕栄
研究期間	2019～（新規）

1 目的

茨城県農業総合センター果樹研究室から報告された「シャインマスカット」の無加温ハウス無核栽培における省力果房管理技術（花穂上部支梗利用，無摘粒，1新梢2果房着果）について検証し，その現地適応性について検討する。本試験では果実品質について着目し，検証する。

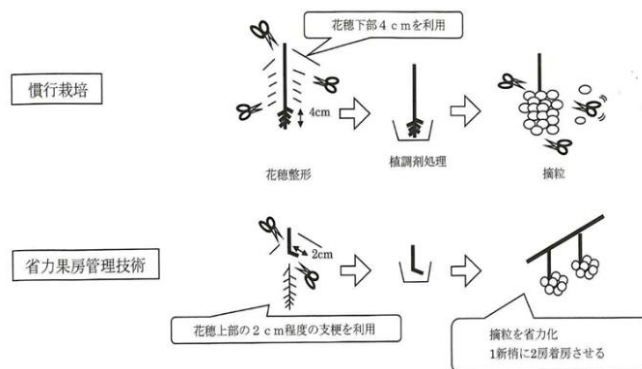
2 方法

- (1) 試験場所 新潟市農業活性化研究センター 果樹ほ場（無加温ハウス）
- (2) 供試樹 品種「シャインマスカット」，無核化栽培，1本主枝，短梢せん定，一主枝，植栽5年目

(3) 試験区の構成

1区1結果枝 3反復

要因	水準
着果管理	慣行・省力果房管理



省力化防管理のイメージ

（出典：果実日本2019年5月号 果樹研究最前線より）

(4) 耕種概要

無核化处理（満開時～満開3日後 GA12.5 ppm+FL2 ppm，満開10日～15日後 GA25 ppm）

3 結果の概要

省力果房管理区は各品質項目とも慣行区に比べやや劣るものの一定の品質は確保され，多様な需要のアイテムとして対応できると思われた（表1，図1）。

表1 果房の品質

区	着房位置	果房重 (g)	着粒数 (粒)	1区3果房の平均値	
				1粒重 (g)	糖度 (%)
慣行	—	616	33	18.7	18.9
省力果房管理	第1果房	392	24	16.3	18.5
	第2果房	388	22	17.6	16.6



図1 収穫果房の状況

- 上から1段目：省力管理第1果房
- 2段目：省力管理第2果房
- 3段目：慣行